月刊イオ電子ブックレット○2014年4月号

もうひとつの旅 2011

io 22

電子ブックレット
io Digital Books

月刊イオ電子ブックレット○2014年4月号

もうひとつの旅 2011

目次

03　宝塚（兵庫県）―武庫川の渓谷を眺め旧福知山線跡を辿る

07　川越（埼玉県―復活した朝鮮通信使パレード、蔵造りの町並みを散策する

11　大磯（神奈川県）―朝鮮からの渡来人が住んだ地、「高麗」の名が残る

15　伏見（京都府）―渡来人・秦氏が創建した稲荷大社

19　高崎（群馬県）―森の中にある朝鮮人強制連行犠牲者追悼碑

23　相島（福岡県）―朝鮮通信使が立ち寄った玄界灘の島

27　鎌倉（神奈川県）―雄大な太平洋が広がる由比ヶ浜

出典

03-06p	2011年1月号 04～07p	19-22p	2011年8月号 20～23p
07-10p	2011年2月号 12～15p	23-26p	2011年11月号 22～25p
11-14p	2011年4月号 20～23p	27-30p	2011年12月号 22～25p
15-18p	2011年7月号 22～25p		

io means the inheritance of national identity by Koreans of all generations in Japan.
在日同胞をネットワークする

▼ダウンロードは、電子ブックレットのホームページへ
www.io-web.net/store

月刊イオ

電子ブックレット io Digital Books

〒112-8603 東京都文京区白山4-33-14 朝鮮新報社 月刊イオ編集部／TEL 03(6820)0107(代)／FAX 03(3812)9572／Eメール：io@io-web.net

宝塚 1 もうひとつの旅 2011

文・写真：琴基徹

兵庫県宝塚市というと、すぐに思い浮かべるのが宝塚歌劇団。
しかし、この地も朝鮮半島とのかかわりが深く、
それを示す古くから近代にかけての跡が残されている。
秋の紅葉が最盛を迎えるころ、宝塚を訪ねた。

旧福知山線廃線跡に沿って流れる武庫川。流れが急だったりゆるやかだったり、場所によりいろんな顔を見せてくれた。紅葉が美しい。

武庫川の渓谷を眺め
旧福知山線跡を辿る

もうひとつの旅
宝塚 2011

廃線跡に歴史が息づく

4号トンネルの出口。トンネルは長く電灯がないので懐中電灯は必需品だ（右上）／ハイキングコースにはここが鉄道だったことを示すものが多く残されている。新3号トンネルの手前にある鉄橋（右下）／5号トンネルを抜けると大きな鉄橋が現れる。古びた鉄橋が美しい（下）／鉄橋を渡るとすぐに6号トンネルがある。トンネルの武田尾側の入り口でダイナマイト爆発が起こったとされる。1929年3月のことで、2人が死亡、3人が重軽傷と朝鮮人5人が被害を受けた（左）

今回の旅のメインは、旧福知山線の廃線跡を辿るコース。JR宝塚駅から三田方向へ一つ進んだJR生瀬駅で降りる。ここから武庫川沿いを旧福知山線の廃線跡がJR武田尾駅まで続く。渓谷の流れを見ながらの素晴らしいハイキングコースとなっている。この廃線は1986年まで使用された。現在は少し離れたところに新線が走っている。

有名なハイキングコースで休日だったこともあり、多くのハイキング客が訪れていた。コースの途中には、新3号から8号までのトンネルがある。新3号、4号、5号はトンネルが長く、懐中電灯がなければ真っ暗で通れない。持っていくのを忘れたのだが、他に通行者が多くて、その光を頼りに歩くことができて事なきをえた。鉄橋があったり道には枕木がずっと残っていたりと、景色の美しさだけでなくコースとして趣がある。

旧福知山線は、1899年に全線が開通した。その中でも、武庫川渓谷沿いの生瀬～道場間は多くのトンネルがあり、非常な難工事だったと言われている。開通した後も、川の流れが急なため護岸が削られ補修工事が引き続き行われた模様で、新3号トンネルが掘られたのが1921年から23年にかけて。それらの工事に朝鮮人が動員されたと見られている。1929年3月26日、6号トンネルの入り口でのダイナマイト爆発事故により朝鮮人2人が死亡、3人が重軽傷を負ったことが当時の新聞に記されている。

訪れたときは紅葉の真っ盛り。7号トンネルを出たところが特に綺麗でお弁当を食べるのに良い場所。朝10時ごろJR生瀬駅を出ると、ちょうど昼ごろに到着できる（右）／JRと阪急の宝塚駅からすぐに宝塚大劇場（左）と手塚治虫記念館がある。興味のある方はぜひ

阪急山本駅から歩いて20分ほどのところにある大井寺。90年ほどの歴史をもつ朝鮮寺だ

朝鮮と日本の関係を物語る200基もの古墳たち

終点の武田尾には温泉があるので、時間のある方はゆっくりしてもいいだろう。今回は生瀬→武田尾というコースを取ったが、逆を辿ることもできる。ゆっくり歩いても3時間のハイキングだ。

宝塚には古墳も多い。長尾山丘陵などに200基近くの群集墳が残っており、古くから朝鮮とのかかわりがあったことをうかがわせる。古墳時代の中期から後期に当たるものが多いようだが、「兵庫のなかの朝鮮」（『兵庫のなかの朝鮮』編集委員会編、明石書店）には次のように書いてある。「宝塚の北側には長尾山丘陵が東西に約4kmにわたって延びており、南麓の尾根ごとに古墳群が形成されている。ここでは、初期の横穴式石室や、竪穴式石室に出入り口をつけた竪穴系横口式石室といわれる特異な石室、さらに、鍛冶道具や、鉄滓などを副葬した古墳が見られる。これらはすべて渡来系集団の墳墓と関連する遺構や遺物であるといわれている」。

今回訪れたのは、阪急中山駅からすぐの中山寺にある中山寺古墳、そして中山寺から東西に歩いていける距離にある中山荘園古墳と中筋山手東古墳群2号墳である。中山寺は安産にご利益があるお寺として有名だ。また、宝塚には朝鮮寺もいくつかある。その中でも一番有名なのが大井寺。山の中にひっそりとたたずむ。旧福知山線のハイキングと合わせても、1日あれば充分に回ることができた。

阪急中山駅から東へ10分ほど歩いたところにある中筋山手東古墳群2号墳。民家の裏にあり見つけにくいので注意（右）／写真左は、中山寺とお寺のなかにある中山寺古墳。古墳洞内の大きさは、横幅2.5m、奥行き3.6m、高さ3.2m。中には石棺が安置されている

川越 2 もうひとつの旅 2011

文: 琴基徹 ·写真: 琴基徹、鄭愛華

「小江戸」の別名を持つ埼玉県川越市。
江戸時代には川越藩の城下町として栄えたところで、江戸時代の
街並みが残る風景は観光地としても人気がある。そしてここにも、
朝鮮と日本との交流の足跡をみることができる。

復活した朝鮮通信使パレード
蔵造りの町並みを散策する

川越市のシンボルとも言える氷川神社（右）と時の鐘。時の鐘は3層構造の塔で、高さ約16ｍ。現在、1日に4回（6時、12時、15時、18時）鐘の音を響かせている

見所の多い観光スポット

「菓子屋横丁」の町並み。1930年ごろには70軒ほどの業者が軒を連ねていたといわれている。現在は20数軒の店舗が連なり、観光スポットとして整備されている（写真左、下）／右の写真2枚は、菓子屋横丁すぐ近くの路地に泳いでいた鯉とカメレオンのオブジェ。カメレオンの他にも動物のオブジェが何体か置かれていた

池袋から東武東上線に乗る。目的の川越までは、急行なら30分ちょっとで到着する。東武以外にもJR、西武も通っており近くて便利がいい。

川越に到着し、まず向かったのは1500年の歴史を持つという氷川神社。この神社には、朝鮮通信使行列の様子を絵馬に描いた「朝鮮通信使行列大絵馬」が江戸時代に奉納され残されている。川越市の最も大きなイベントが川越まつり（10月第3土曜・日曜）だが、氷川神社の神幸祭が起源とされている。江戸時代、川越まつりでは豪華な山車と、様々な行列（練物）が行われてきたそうだが、その中に「朝鮮通信使」の行列をまねた「唐人揃い」という練物があったと記録されている。今でいう仮装行列のようなものだ。しかし、「唐人揃い」は「明治」以降行われなくなっていた。

その「唐人揃い」＝朝鮮通信使の行列が復活したのが2005年のことだった。朝鮮の解放から60年に当たる年に、不幸だった日本と朝鮮の関係をよりよいものにしていこうと、日本人の有志が準備を進めたのである。

2005年11月13日、第1回の「復活！唐人揃い―朝鮮通信使多文化共生・国際交流パレード」が、川越市の蔵造りの町並みで盛大に行われた。パレードには、総聯埼玉県本部西部支部と西部地域の民団同胞が合同で、また埼玉朝鮮初中級学校など16のグループ、団体が参加した。参加者たちは朝鮮の民族衣装に身を

左の写真2枚は、氷川神社の境内。埼玉県の重要文化財で、昔から縁結びの神様として知られている。そのためか、境内には数え切れないほどの願い事の書かれた絵馬があった／右は蔵造りの町並みにある「川越市蔵造り資料館」

大火に教訓を得て、火災に強い蔵造り建築を取り入れたことから、蔵造りの町並みが作られた。最盛期には100軒の蔵造りの商家があったという

江戸時代の町並みが残る蔵造り通り

包みチャンゴ、ケンガリなどを打ち鳴らしながら、また、埼玉初中の生徒たちは農学隊の格好で練り歩いた。この行事はその後、毎年続けられており、昨年の第6回パレードは11月14日に行われている。

このパレードが行われている蔵造りの町並みが、川越観光の最大の見所となっており、川越が「小江戸」と呼ばれるゆえんとなっている。氷川神社からぶらぶらと10分ほど歩くと到着する。

蔵造りは類焼を防ぐための巧妙な耐火建築で、江戸の町家形式として発達したものだ。日本の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されている。200メートルほどの通りの左右に蔵造りの家が並ぶ姿はなかなかの壮観で、確かに趣がある。中心には川越のシンボルとなっている「時の鐘」がある。

蔵造りの町並みのすぐ横には「菓子屋横丁」という通りもある。ここも古い下町の雰囲気があふれる場所で、ぜひ訪れたい。この一画すべてが観光地としてよく整備されていて、飽きさせない。

最後に、川越と朝鮮との関係についてもう一つ記述すると…。1923年に起こった関東大震災で多くの朝鮮人が虐殺されたが、川越にも余震の続く9月1日の夕方に「朝鮮人が暴動を起こしている」などのデマが流れてきたそうだ。そのデマを信じて一部の日本人が朝鮮人を襲撃しようとしたが、すばやく朝鮮人を市役所の市長室裏庭と警察署に保護し棍棒や鳶口などの凶器を持った日本人から守ったと伝えられている。

川越の観光スポットとして外せないのが喜多院ゾーン。喜多院は、慈覚大師が830年に創建した天台宗の名刹で、江戸時代初期、天海大僧正が住職をつとめた寺として有名だ。境内の中にある慈恵堂（写真中央）と多宝塔（写真右）。写真左は仙波東照宮

神奈川県 大磯 3

もうひとつの旅 2011

文・写真：琴基徹

相模湾に面した大磯は、日本で初めての海水浴場ができたところ。
雄大な太平洋を眺めることができる。そして、後ろをふりかえると、
高麗山をはじめとする山並みが連なる。

朝鮮からの渡来人が住んだ地「高麗」の名が残る

湘南平の展望台の上から眺めた景色。テレビ塔のある方向が東京方面。遠く、平塚市や相模湾、三浦半島などが見渡せる。湘南平は山頂にある公園として人気のスポットだ

もうひとつの旅 2011
神奈川県
大磯

手軽なハイキングに最適

写真左は、高来神社の入り口にある鳥居／鳥居をくぐると観音堂（現高来神社）に続く道が延びる。正面に見える低い山が高麗山だ（右下）／高来神社の裏にまわると高麗山に登るための入り口がある（右上）／高麗山の頂上（右中）／写真下は、最高峰の浅間山（181.2m）。小さなほこらと一等三角点が置かれていた。高麗山の頂上から歩いて10分ほど

JR東海道線で大磯に向かう。平塚駅を出てしばらくすると右手に今日の目的地の一つ、ラクダのコブのような形をした高麗山が見えてきた。

JR大磯駅からまず向かったのは平塚寄りにある高来神社。高麗山を背にして建つ神社だ。「高来」は「たかく」と読むようだが、「高麗寺」という別名もある。「明治」になり、神仏分離のなかで高麗寺も廃寺となり、神社だけが残り1897年に高来神社と改称され今に至っている。

高来神社の裏にまわると、高麗山へ上る山道がある。山道は二つにわかれていて、左が男坂、右が女坂と標識に出ていた。迷わず女坂の方を登ることにする。高麗山は標高が167mしかないから30分もかからずに頂上についてしまった。

頂上には「高麗と若光」という説明文が立てられていた。「…相模国をはじめ東国七州の高麗人を武蔵国に移して高麗郡をおいたと「続日本記」には書かれています。／奈良時代のころ高句麗は唐・新羅に滅ぼされ、日本に難を逃れた人も多くその中に高句麗王族のひとり高麗若光もいました。若光は一族をつれて海を渡り大磯に上陸、日本に帰化してこの山のふもとの化粧坂当たりに住み、この地に○○な文化をもたらしました。／高麗若光と高句麗の人たちが住んでいたことから、この地が高麗と呼ばれるようになりました」。

埼玉県にも高麗という地名、高麗神社があるが、そこも高麗王若光が切り開い

JR東海道線から眺めた高麗山。平塚駅から大磯駅に向かう途中で右手に見えてくる（右）／高麗山の麓にある高来神社。高麗寺とも呼ばれている（中央）／JR大磯駅から南へ5分 ほどのところにある「大磯宿小島本陣旧蹟」。ここで朝鮮通信使が休息をとった（左）

JR大磯駅から歩いて10分ほどのところには海水浴場が広がっている。日本最初の海水浴場だ。何人かが釣りを楽しんでいた

雄大な太平洋を目の前にのぞむ大磯

た地域である。説明文は誰かがいたずらをしたのか、文字が消されており「○○」の部分は完全に読めなくなっていた。

高麗山の頂上から大磯駅の方向へ、なだらかな山道が続く。このあたりは相模湾から相模平野一帯を見渡せることから軍事上の要衝として室町時代に山城として利用されていた。最高峰の浅間山（181m）を通ってしばらく行くと、湘南平（179m）という山の上とは思えない広々とした広場に出る。展望台があり上がってみると、確かに絶景が広がっていた。西に位置する富士山を筆頭に、伊豆、箱根、相模平野、江ノ島、三浦半島などが360度に広がる。そして雄大な太平洋。湘南平は桜の名所として有名らしく、この4月号が読者に届くころが訪ねるのに一番良い季節なのではないか。

今回の旅は「神奈川のなかの朝鮮」（明石書店）という本を参考にした。下山する際、本に書かれていた通りに楊谷寺横穴古墳群を通るコースを選んだ。山道を下ると突然いくつもの横穴古墳が現れるので驚かされる。古墳時代後期のもので27基もあるとのこと。古墳群から30分も歩くと大磯駅に到着する。

大磯は江戸時代に朝鮮通信使が通り休んだ場所でもある。朝鮮通信使の三使（正使、副使、従事官）が休んだのが小島本陣という宿で、そこには現在、宿があったことを示す碑が残っている。大磯はまた、伊藤博文や吉田茂など多くの政治家の旧邸跡がある場所として知られている。

大磯の名物の一つである旧東海道の松並木（右）／大磯の観光スポットの一つ「鴫立庵」。京都の落柿舎、滋賀の無名庵と並び、日本三大俳諧道場の一つとされる。中には墓碑、句碑などが並ぶ（中央）／湘南平から下ったところにある楊谷寺横穴古墳群（左）

京都府 伏見 ④

もうひとつの旅 2011

文・写真：琴基徹

日本一の観光都市と言えば京都。市内には多くの観光地が点在している。
伏見もそのひとつ。稲荷大社を中心に人気が高い。
当然ながら、ここも朝鮮と縁の深い場所だ。

稲荷大社の見所と言えば「千本鳥居」。朱色の鳥居が数え切れないほど並ぶ

渡来人・秦氏が創建した稲荷大社

古い時代の息吹がある町

写真右上から、奥社奉拝所にある「おもかる石」。願い事を祈念しながら石灯籠の上の丸い石を持ち上げて、自分の予想より軽ければ願いが叶い、重いと叶わないと言われている／どこまでも続く千本鳥居／御本殿の裏の石段を登ると現れる奥宮／写真下は藤森神社。学問と馬の神として知られる／写真左は濠川（宇治川派流）を行き交う遊覧船の十石舟

伏見区は京都市のなかでもっとも南に位置し、南側を宇治市などと接している。ＪＲ奈良線、近鉄線、京阪線が南北に走り、京都中心部、大阪のベッドタウンとして栄え、京都市にある11の区のなかでもっとも人口が多い。

伏見を旅するなら、まず、稲荷大社へと向かおう。ＪＲ稲荷駅、京阪伏見稲荷駅のどちらからでも近い。

稲荷大社と言えば「商売繁盛の神」として知られ、日本全国に４万社ほどもあるといわれる稲荷神社の総本宮である。新年の初詣のときには参拝客が殺到し、テレビ中継もよくされている。稲荷大社は、朝鮮からやってきた秦氏によって作られた。稲荷大社のホームページにも「稲荷大神のご鎮座は秦（はたの）伊呂巨（具）（いろこ（ぐ））によって和銅四年（７１１）２月初午の日に、なったと伝えられ」たと記されている。秦氏が稲荷大社のある深草の地に定着したのは5世紀代だといわれているようだ。絹織物の技術など朝鮮からの文化を伝えた。

本殿の後ろに稲荷山が広がっており、順路に従って巡っていくのが本来の姿なのだが、ちょっとした登山となる。石段には有名な「千本鳥居」が延々と並んでいる。立ち並ぶ朱色の鳥居が作り出す景色はちょっと異様でもある。鳥居の一つひとつには奉納した個人や会社などの名が記されている。ひとつ奉納するのにいくらかかるのだろうと、俗っぽいことを考えたりする。

城南宮の中にある真幡寸神社、近鉄竹田駅から歩いて15分ほど（右）／稲荷大社の入り口にある手水舎（手前）と楼門（中央）／藤森神社のなかにある御旗塚。「旗」はこの地に定着した秦氏の「秦」とつながると言われている（左）

稲荷大社の入り口に当たる楼門。稲荷大社のシンボルであるキツネが左右で守っている

日本全国、4万の稲荷神社総本宮

伏見には稲荷大社の他にも秦氏と縁のある神社が二つある。藤森神社と真幡寸（まはたき）神社だ。藤森神社は、学問の神、馬の神として信仰され、馬主や競馬ファンがたくさん訪れるそうだ。そう遠くないところに京都競馬場もある。真幡寸神社は、城南宮という方除け、厄除けの神社の中にある。「京都のなかの朝鮮」（明石書店）によると、藤森神社に合祀されている藤尾社（東展）は、もとは現在の稲荷大社に鎮座していた。1438年に稲荷大社を山上から平地の藤尾の地に遷座した時に、藤尾神社を現在の藤森神社がある地に遷し、その当時に藤森神社の現社殿の隣にあった真幡寸神社を西方へ遷したというのである。つまり玉突きのように、場所が遷されたということだ。

伏見といえばもう一つ有名なのが、お酒。京阪伏見桃山駅近くに、伏見城の外堀・濠川（宇治川派流）沿いに江戸時代の面影を残す町並みがある。そこには当時の酒蔵が並んでいて、月桂冠大倉記念館というお酒の博物館もあり、酒造用具類やお酒の歴史について展示している。濠川の月桂冠大倉記念館裏から十石舟という遊覧船が出ており、観光名所になっている。江戸時代にお酒や米を大阪に運んだ舟を再現したものだ。

また、その町並みの中に、日本では人気のある坂本竜馬が襲撃された寺田屋事件で有名な寺田屋があり、路地の一つが竜馬通りと名づけられている。興味のある方は寄ってみれば良いだろう。

京阪淀駅近くにある唐人雁木旧趾。ここは桂川と宇治川の合流地点に当たり、江戸時代、朝鮮通信使一行の下船場だったことを伝えている（右）／酒作りの歴史を伝える月桂冠大倉記念館（中央）／坂本竜馬の寺田屋事件があった寺田屋が残っている

群馬県 高崎 ⑤

もうひとつの旅 2011

文・写真：琴基徹

群馬鉄山や中島飛行機工場など、群馬県にも多くの朝鮮人が強制連行され酷使され犠牲となった。日本人市民らが犠牲者を追悼するため建てた碑を訪ね高崎市へと向かった。

森の中にある朝鮮人強制連行犠牲者を追悼する碑「記憶、反省そして友好」。右横にあるのは献眼顕彰碑

森の中にある朝鮮人強制連行犠牲者追悼碑

もうひとつの旅
群馬県 高崎
2011

高崎のシンボル・大観音

観音山に鎮座する高崎白衣大観音。高さは41.8メートル。1936年に建てられた。この日も多くの観光客が訪れていた（左）／大観音から800メートルほど離れたところにある洞窟観音。洞窟の中に何体もの観音像が収められている（下）／高崎市を走るローカル線の上信電鉄（右上）／観音山にある高崎市染料植物園（右中）とつり橋（右下）

JR高崎駅から巡回バスに乗って約20分ほど行くと、緑豊かな公園が広がる。群馬の森という群馬県立公園だ。広さは26・2ヘクタール、シラカシ、クヌギ、オニグルミ、エノキ、コナラなどの樹木が生い茂り、芝生の緑が広がり気持ちがいい。また、県立近代美術館、県立歴史博物館が園内にあり、群馬県の文化の中心にもなっている。

この公園は日本の敗戦前までは、「東京第二陸軍造兵廠岩鼻製造所」という軍事工場だった。主に火薬を作っていたところで、日本で初めてダイナマイトが製造されたところだ。それを記念する碑も残っている。

今回この公園を訪れた目的は、別の碑を見るためだ。「記憶、反省そして友好」という名称の碑である。強制連行・強制労働によって群馬県で犠牲になった朝鮮人を追悼するために2004年4月に建てられたものだ。県の施設の中にこういった碑が建てられたのはここが初めてで、非常に珍しい。

訪ねた日、碑の建設を進め現在は「記憶、反省そして友好」を守る会として活動している方々が、碑の清掃のために訪れていた。年に4回、集まって清掃するとのことである。その中の横田英明さんが碑建設の経緯について説明してくれた。1995年、「戦後50年」を迎えるに当たり、日本の過去の過ちを明らかにし繰り返さないようにと、「戦後50年を問う群馬の市民行動委員会」が結成されたのがそ

高崎白衣大観音の真横にある慈眼院本堂。鎌倉時代中期に建てられたと伝えられている。1941年にこの場所に移転された（右）／「記憶、反省そして友好」の碑の全体像（中）／碑の塔の隙間から碑の壁の隙間を結ぶ直線を延ばすと朝鮮半島のソウルに達するという（左）

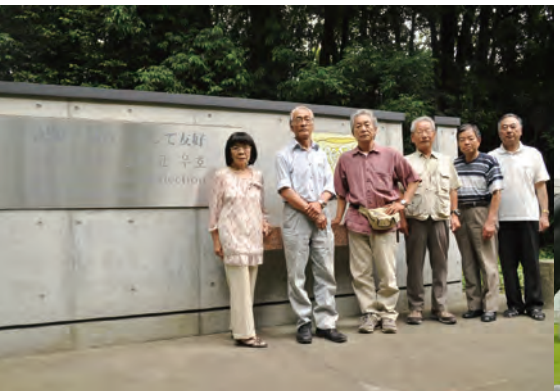
日本語、朝鮮語、英語で綴られた碑名
「記憶、反省そして友好」

日本の過去の国家犯罪を後世に伝える

もその始まりだったという。「その活動の中でメインとなったのが、県内の朝鮮人強制連行の問題でした。群馬県だけで6000人にも及ぶ朝鮮人が強制連行され酷使された。でも記録がほとんど残されていませんでした」と横田さんは語る。それらの活動の中で98年に結成されたのが「朝鮮人、韓国人強制連行犠牲者追悼碑を建てる会」だった。

紆余曲折のなか建立地に群馬の森が決定するが、県の施設だということで碑文をどうするかを巡って問題があった。県と県の相談を受けた外務省が、申請団体名、碑文から「強制連行」という言葉を削除するなどの要求をしてきたのである。ここで詳しい経緯を書く余裕はないが、最初に建てる会が提示した碑文は日本政府の犯罪を明確にしたものとなっているけれど、実際に完成した碑文は大きく変えられている。横田さんは「いずれきちんとした碑文に書きかえたい」と語っていた。碑を設計した中山敏雄さんは、「この碑はアルミやコンクリートで作ることにしました。20世紀に行われた出来事だから、20世紀の材料で作ることで、後世に日本の犯罪を伝えたかった」と説明してくれた。

群馬の森を後にし、高崎最大の観光地である高崎白衣大観音を訪れた。高さ41・8メートルにもなる巨大な姿は間近で見ると迫力がある。大観音がある観音山は観光地として整備されており、植物園や洞窟観音などの観光スポットがある。ちょっとしたハイキングに最適の場所だ。



元火薬工場だった群馬の森には爆風避けの土塁など、その名残が残っている（右）／群馬の森の中は緑が広がり県立近代美術館、県立歴史博物館などの文化施設がある（中）／「記憶、反省そして友好」を守る会のメンバーの方々。30名ほどが活動しているそうだ。この日は6人が集まり、碑の清掃に当たった

福岡県 相島

6

もうひとつの旅 2011

文・写真：琴基徹

玄界灘に浮かぶ相島。
朝鮮通信使がたびたび立ち寄った島として知られている。
今もその痕跡が多く残り、碑も建てられている。

相島の港。テトラポットの奥に見える石でできた波止場(先波止)に朝鮮通信使の船が泊まった

朝鮮通信使が立ち寄った玄界灘の島

もうひとつの旅 2011

福岡県 相島

玄界灘に浮かぶ漁業の島

相島港に着いた連絡船「しんぐう」。九州本土の新宮港と相島を結ぶ（右上）／名所のひとつである鼻栗瀬（めがね岩）（右中）／第7次朝鮮通信使（1682年）のために2ヵ月の工事でつくられた先波止。石が積み重ねられている（右下）／豊臣秀吉軍が朝鮮を侵略する時に島に寄り戦勝祈願したとされる太閤潮井の石（下）／灯台が立っているところが現在の渡船場で朝鮮通信使が使った波止場（前波止）（左）

福岡県の新宮港から7時50分に出発する連絡船に乗り込む。船内で落ち着く暇もなく20分弱で到着した。相島は手軽に行ける島だった。周囲約8キロメートル、人口四百数十人ほどの島で、新宮港からは7・3キロメートル。島は東西に長く、島の南側だけが拓けており、漁港、集落がある。

渡船場を出ると道の正面に、「朝鮮通信使客館図」というものが掲げてあった。朝鮮通信使は江戸時代に12回にわたり朝鮮と日本を往来しているが、相島に滞在するよう規定されていたため、11回この相島に立ち寄っている（最後の通信使は対馬で対応したため、相島を訪れていない）。そのため、相島には朝鮮通信使が泊まった宿（客館）があったのだ。客館図は江戸時代の相島の地図に宿の場所などが書かれてある。当時、黒田藩が朝鮮通信使をもてなしていた。朝鮮からの使節団は300～500人にもなり、天気が悪ければ20日以上も停泊したそうだ。

客館図が立てかけられた道は東西に延びる。相島を1周する島の幹線道路だ。東方面へと歩くことにした。

後で知ったことだが、渡船場の真横に延びる波止場とそこから東へ100メートルほど行ったところにある波止場は、それぞれ前波止と先波止と呼ばれ、朝鮮通信使が上陸するために用いられたものである。それらは1682年の第7次朝鮮通信使が来たときに作られたもので、約2ヵ月間に延4000人の人夫が動員されての工事だったそうだ。大きな石材

写真右は新宮港。ここから相島を往復する船が出ている／相島で一番たかい場所にある遠見番所跡の灯台（左）と島で信仰されている龍王石（中）

朝鮮通信使客館跡に建てられている朝鮮通信使客館跡之碑。港からすぐのところにある

もてなしを受けた朝鮮からの使者たち

が積まれた波止場を見ると、当時、ものすごい難工事だったことが伝わってくる。

先波止からまたしばらく行くと、朝鮮通信使客館跡が現れる。今は畑になっていて、まったく当時の姿は残っていない。畑の奥には「朝鮮通信使客館跡之碑」が建っている。幹線道路に立てられた説明文には次のように書かれている。「客館は毎回新築し、波止場の新修築や諸施設を建設しました。水は井戸や水溜場をつくり確保しました。平成六年に、この畑の発掘調査を行った結果、大規模な建物跡が見つかり、この場所に壮大な客館があったことが分かりました。」

島を一周する道は約6キロほど。相島は、朝鮮や、筑紫、唐津、長崎へ向かう船人が立ち寄る海上交通の要衝の島で、また、玄界灘が荒れている時でも九州本土に比べて船の出入りが可能であることが多く、昔から船の避難場所にもなっていた。そういうこともあり、島のあちこちには古跡が残っている。歩いてぜひ島を一周してもらいたい。龍王石、遠見番所跡、穴観音、太閤潮井の石、相島積石塚群、日蒙供養塔などの名所が現れる。

そのうちで朝鮮と縁が深いのは、太閤潮井の石と相島積石塚群。太閤潮井の石は豊臣秀吉が朝鮮を侵略する時に軍船が島に寄り戦勝祈願をしたというもの。相島積石塚群は5世紀後半から6世紀にかけて造られた254基もある古墳群で、朝鮮の伽耶系の土器も出土しており、朝鮮半島とのつながりがうかがえる遺跡だ。

島の北側の海、海岸に下りると穴観音という名所があるが、訪れたときは通行止めになっていた(右)。朝鮮との縁が深い相島積石塚群はぜひ訪れたい(中) ／いまは畑になっている朝鮮通信使客館跡(左)

神奈川県 鎌倉 最終回

もうひとつの旅 2011

文：琴基徹・写真：編集部

源頼朝が幕府を開いた都市、鎌倉。
当時の繁栄を伝える多くの文化財が点在する。
その中には朝鮮半島と縁の深いものもある。関東地方で有数の観光地だ。

JR鎌倉駅から1キロほど歩くと相模湾に出る。流れるのは滑川で、右が由比ヶ浜、左が材木座海岸

雄大な太平洋が広がる由比ヶ浜

もうひとつの旅
神奈川県
鎌倉
2011

中世の文化を今に伝える

江ノ電江ノ島駅近くの常立寺の境内にある「元使塚」。1275年に元の国の使者ら5人が口刑場で斬首された。それを供養するため1925年に建てられた。その5人の中に通訳だった高麗人の徐賛も含まれている（左）／常立寺の正門（下）／JR鎌倉駅の駅舎。江ノ電鎌倉駅はこの逆側にある（右上）／JR鎌倉駅から若宮大路に入るとすぐに現れる鶴岡八幡宮の二の鳥居（右中）／さらに進むと三の鳥居がありそれをくぐると鶴岡八幡宮の境内に入る（右下）

新宿から電車で1時間。鎌倉は首都圏に住む人たちにとって身近な観光地で人気が高い。訪れた日は平日だったにも関わらず、主だった観光スポットには修学旅行でやってきた小・中学生をはじめ観光客で溢れていた。

まず、JR鎌倉駅からメイン通りの若宮大路を歩いて鶴岡八幡宮へと向う。鶴岡八幡宮の始まりは、1063年に源頼朝の父・源頼義が奥州を平定して鎌倉に帰り、源氏の氏神として京都の石清水八幡宮を由比ヶ浜辺に祀ったことによる。頼朝が今の位置に遷し鎌倉の中心に据えた。現在の本殿は1828年に建てられたもの。日本三大八幡宮のひとつとされている。

ここには高麗時代の1324年に鋳造されたという朝鮮鐘が所蔵されている。以前は大石段を上がった本殿にある宝物殿に展示されていたが、今は一般公開されていないという。朝鮮鐘を見るのが大きな目的だったので残念だった。

以前、展示されていた時に朝鮮鐘には次のような説明文があったと「神奈川のなかの朝鮮」（明石書店）に記載されている。「朝鮮鐘は外形では和鐘と異なるところはないが、袈裟襷の区画がなく、鐘身に天女や仏像が鋳出される。竜頭は単頭で四肢が多い。この鐘は小型で竜頭の立体的な動き、上下帯の唐草文、撞座と四躯の菩薩像などに見るべきものがある」

JR鎌倉駅と隣接する江ノ島電鉄鎌倉駅から長谷駅へ。「江ノ電」の愛称で知られるこの路線は、ローカル線の趣を楽し

鎌倉を象徴する高徳院の大仏。像高約11.39メートル（台座を含めると13.35メートル）、重量約121トン（右）／大仏の後ろにある観月堂。ソウルの景福宮にあったものが植民地時代にここに移されてきた（中）／観月堂の横にある与謝野晶子の歌碑（左）

鶴岡八幡宮の本殿。鎌倉の歴史と文化を伝える。
朝鮮鐘が所蔵されている

祖国への帰還を待つ朝鮮の建造物

める他、風光明媚な湘南海岸を併走し家屋の間を縫うように走るなど、鉄道ファンの間で人気が高く、江ノ電自体が観光名物となっている。晴天のこの日、カメラを持ったたくさんのファンがのんびりと走る江ノ電にレンズを向けていた。

長谷駅から徒歩数分で高徳院に到着。高徳院には鎌倉のシンボルともいえる鎌倉大仏がある。しかし、目的は大仏ではなく、その後ろにある観月堂という建物だ。

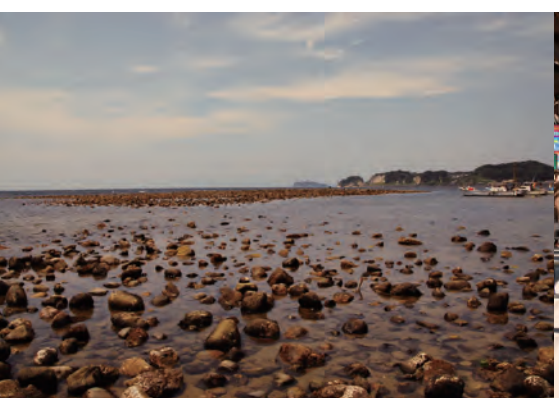
説明文には、「丹青に彩られたこの建物は、もとはソウルの朝鮮王宮にあったもので、1924(大正13)年、杉野喜精氏によって当山へ寄贈されました」と書かれている。

観月堂は、李王朝時代に王宮の景福宮(ソウル)にあった月宮殿で、当時、朝鮮王室から朝鮮拓殖銀行に渡り、その後、山一證券の前身・山一合資会社の創始者・杉野喜精氏の手に移ったとされる。杉野氏の邸内に設置されていたものが高徳院に寄贈された。

植民地時代に朝鮮半島より日本に持ち去られた文化財の返還事業が進められているが、観月堂も昨年より元の景福宮に返還されるという話が韓日間で進められているという。

旅の最後は、長谷駅から江ノ電に乗って江ノ島駅へ。鎌倉から江ノ島まで、江ノ電で24分。鎌倉まで来たら、少し足を伸ばして江ノ島にも寄ってみたい。

(おわり)



JR鎌倉駅にある時計台(右)／観光客にも人気の江ノ電(中)／相模湾東部にある和賀江島。現存する日本最古の築港遺跡で1232年に築造された。かつては朝鮮から陶磁器などもこの港に運び込まれたという(左)